

IBARAKI WOOD DESIGN CONTEST 2026

令和7年度いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

深呼吸しよう、
木の住まいで。

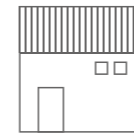
一日の終わりに。休日の昼下がりに。
すうっと吸い込む空気が美味しい。
ふうっと吐き出す息も清々しい。

家族の顔が柔らかくなる、
仕草が優しくなる。
木の家は「暮らし方」を変えてくれる。



自然がはぐくみ、人の和が育てる。木のぬくもりあふれる、堅実な暮らし。

茨城県木材協同組合連合会



令和7年度
いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

この冊子は「いばらき地域適合型木造住宅」の基本的な考え方を啓発普及するために作成されたものです。掲載される記事内容はすべて各チームからの提出書類を要約したもので、「宣伝広告」を意図したものではありません。
また当連合会では、これら各グループへの仲介斡旋は一切行っておりません。



木造住宅相談店

主催／茨城県木材協同組合連合会
協力／茨城県
後援／(一社)茨城県建築士事務所協会・(一社)茨城県建設業協会

〈お問合せ先〉
茨城県木材協同組合連合会
TEL.0294-33-5121 (代) FAX.0294-33-5191
<e-mail>mokuren@atlas.plala.or.jp
茨城県土木部都市局住宅課
TEL.029-301-4759 FAX.029-301-4779

木の家で暮らそう。

地元の大工が地元の木で作る。
日本の「いい家」のつくりかた。

Concept

■地元の大工が地元の木で建てるといい家になる、と言われます。南北に長い日本は気象や地理条件が地域で異なり、その土地独自の材の選び方、組立方法など長年積み重ねられた経験や工夫を取り入れる地元の大工こそが、長く住める家を建てられるからです。また、地域大工・工務店は完成後もきめ細かいアフターメンテナンスや修繕に対応します。地域には信頼関係に根ざした安心できる家づくりのシステムが構築されていたのです。■茨城県では家づくりの原点に戻り、地域が育んだ木材を利用し、現代のライフスタイルに合う木造住宅を適正な価格で提供するため、地域の木工・工務店と建築設計事務所が連携・協力しながら、家づくりを通して建築主との信頼関係を育てていく、安心と信頼の地域ルール「いばらき地域適合型木造住宅供給システム（自然が育み、人の和が育てる）」の確立を考えています。■関連事業者の連携、協力の下に提供された良質な木造住宅の企画や提案を含む建築実例を募集し、ここにまとめました。皆様の家づくりの検討の一助となれば幸いです。



Index

- 千波の家……………1
岩瀬卓也建築設計事務所 + アトリエキラク(株)
- ぐるぐるの家……………2
(株)井川建築設計事務所 + (株)渡辺建工
- 半田の家……………3
naka建築設計室 + (株)渡辺建工
- ビンテージハウスリノベ……………4
(株)井川建築設計事務所 + (有)櫻井建築
- 「いばらき適合型木造住宅」とは……………5
- 【講評】……………8
(社)茨城県建築士会会長 柴 和伸

● ……「最優秀」作品 ● ……「優秀」作品
○ ……リフォーム賞作品 ○ ……応募作品

※応募作品ページ以外および表紙に掲載された写真はすべて「最優秀賞」「千波の家」のもので、受賞者の意向により「延床面積」「平面図」等の掲載がない作品もあります。ご了承ください。

「感じさせる空間を生み出しています。」
柱材や梁材の大断面による広々とした空間は、細部へのこだわりと伝統を重んじる工法との相乗効果により、落ち着いた豊かな住空間を創出しています。

優秀作品賞

「ぐるぐるの家」

センターキッチンを囲む二階の生活空間は、生活動線と家事動線が分けられ、生活のリズムを整える工夫がなされています。
ファミリークローゼットを備えた土間収納空間は、内と外との境界でもあり、多目的な用途を含んだ空間となっています。
上下階を結ぶ「らせん階段」は、ゲストルーム（共用スペース）へとつながり、空間の広がりを出しています。
リビングの柱や無垢の床材が、木のぬくも

りを感じさせるあたたかな住空間を生み出しています。

リフォーム賞

「ビンテージハウス リノベ」

和室空間を見事に再生し、現代のライフスタイルに合わせた住空間としています。
古い柱と梁のある広々とした空間は、歴史と風格を感じさせながらも、無垢の床材が全体に調和し、やわらかな空気感を醸し出しています。
減築を施し、機能性を高めた空間構成により、これからも、更に長い年月を重ねられることを感じさせています。
古さと新しさの融合により、あたたかく、風格のある住空間を生み出しています。



● 審査委員長
一般社団法人 茨城県建築士会
会長 柴 和伸

● 委員
一般社団法人
茨城県建築士事務所協会 会長
河野 正博
一般社団法人
茨城県建設業協会 建築委員長
松浦 一久
茨城大学工学部
都市システム工学科 教授
熊澤 貴之
茨城県木材協同組合連合会
木造建築部会長
浅川 清司
茨城県農林水産部 林政課
林政課長
細田 浩司
茨城県土木部都市局
住宅課 課長
和田 壽也

「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」の審査を終えて

一般社団法人茨城県建築士会 会長 柴 和伸



令和七年度「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」には、建築設計事務所と地域の工務店、それぞれの専門技術者の皆さんが協力し合いながら知恵を結集し、地域が育んだ木材を活用した作品のコンペでありましたが、リフォームを含め六作品と例年に比べ応募作品が減少となりました。建築業界を取り巻く社会状況の変化もひとつの要因となっているものと思われまます。

竣工した住宅によるコンペは、今年で十五回目を迎え、設計者・施工者の経験と知恵を傾注し、六作品それぞれが敷地を有効に活かし、茨城の気候風土を踏まえながら地域産材を用い、設計者・施工者それぞれがその地域での生活の経験や知恵と建築主の想いを注いで造られた住宅であり、木造住宅の素晴らしさを感じさせてくれました。↓

審査は、七名の審査委員それぞれが、応募作品の中から最優秀作品二点と、優秀作品二点、リフォーム賞二点を選出し、審査委員の投票の結果、最優秀作品「千波の家」、優秀作品「ぐるぐるの家」、リフォーム賞「ビンテージハウスリノベ」の三作品に決定いたしました。

選外となった応募作品も、それぞれが県産木材を生かした力作であり、応募された方には審査委員長として感謝申し上げますと共に、次の機会には、更に二層の力作の応募をご期待申し上げます。

最優秀作品賞

「千波の家」

大径木の原木丸太を製材し、地元の技術を生かしたおおらかで力強い空間は、木の持つエネルギーを放ちつつ、繊細な季節の移ろいを

最優秀

千波の家

岩瀬卓也建築設計事務所 + アトリエエクラク株

時代を超えて愛される、湖畔のスマールライブラリーの存在へ



土底空間。柱・梁・垂木・戸板・野地板はすべて地域材。

■水戸市のシンボル・千波湖。職人のもてる技術の粋をあ日本三名園の一つ偕楽園のつめて作り上げた。各階のロ下到広がる自然豊かな空間。リングスパンは構造計算によって定められた大断面寸法を保持し、地域材が支える。■恒常湖を北に望む敷地に、木製の光が満ちる空間は、例えば大開口が目を引き住まいが誕生した。■一・二階ともに大きく広がる造りつけの木製本棚には、施主の蔵書が読み手を静かに待ち受ける。本を片手に、穏やかな千波湖の水面を眺めるひと時を愉しむリビングダイニングには、安定した北側採光と主軸にした順光の緑が映える。無垢材を手で刻む大工をはじめ、各



2階ホール。吹き抜け越しに、千波湖方面を望む。



2階ホール。大開口の魅力をふんだんに味わう回廊空間。



地域材の本棚に囲まれる、リビングダイニング。

申請者：岩瀬卓也建築設計事務所 (0294-72-6121)

工事施工者：アトリエエクラク株 (0294-85-8686)

延床面積(坪)：141.59㎡(42.74坪)



回遊性を持たせ、学びやチャレンジの場を。段差や配置で緩やかに仕切る、繋がりの家。

■住宅街に位置し、周辺の環境を踏まえた高さ、外観の緑を通じて、地域の景観と調和する計画とした。自然光や通風を最大限に活かしながら、プライバシーの確保もできる空間構成。施主のライフスタイルに寄り添う住まいになった。建具や間仕切り壁で空間を分けるのではなく、段差や配置によって緩やかに繋がる空間づくりを目指した。どこにいても家族の気配を感じ、温度差なく快適に過ごせる。■子どもたちがのびのび暮らせるように。家の中でも「学び」「チャレンジ」の場がもてるように。回遊性のある間取りはライブラリースペースやチャレンジルームを実現し、発育・成長を心地よく刺激する工夫を施した。■白と木を基調にし、シンプルかつ温かみを感じる仕上げが五感に優しい。内外共に「楽しく暮らす」ことを重視し、自宅への愛着、世代を超えて住み続けられる、飽きの来ないプランを実現。在来工法で計画し、将来的に改修工事や増築工事が必要になった際も地域工務店による対応が可能。永続的に愛される住まいの完成となった。



建具や素材ひとつひとつがライフスタイルに寄り添う。

2階からせん階段を見下ろす。空間の繋がりが心地よい居場所をいくつも創り出している。



ダイニングからセンターキッチン、リビング。回遊性が快適な生活動線を生み出す。

申請者：（株）井川建築設計事務所（029-894-3848）
工事施工者：（株）渡辺建工（0296-37-6124）
延床面積（坪）：157.34㎡（47.59坪）



南西から望む外観。様々な表情をみせる明るい印象。



ご存知ですか？ 地域の木材を使うメリット。

地域の風土に馴染みやすい…

地域材は腐りにくく、家が長持ちするといわれています。



日本人は古来から、「地元の木を使った木造住宅」で暮らしてきました。今で言う「地産地消」です。
木は、土地の気候風土、環境に適応しながら成長します。つまり、その土地で成長する`抵抗力、をつけながら育つということ。家づくりにその適応力を活かすことで、丈夫な家を作りだしているのです。

地域ごとの「つくり方」を熟知している…

その土地の家づくりに精通した、身近なプロがいます。

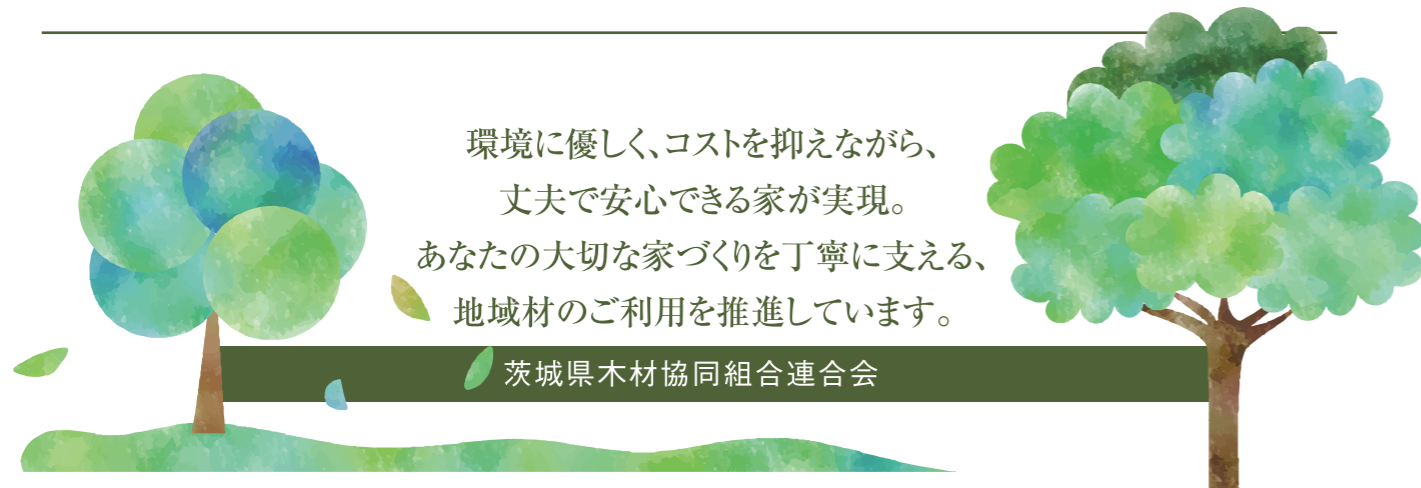
「その土地で育った木を使って、その土地の大工が建てる家が、最も丈夫で安心して暮らせる」。気候の変化や風の入り方、夏の暑さや冬の雪の量に対応する方法など、その土地の「家のあり方」を最もよく知るのが、その地域の大工です。色々なことを知り、教えてくれる身近なプロの知識を最大限に活かす家づくりはいかがですか。

身近な環境で生まれそだった材料をつかう…

材料の輸送にかかるコストを軽減できます。



建材を家づくりの現場に持ち込むための運搬距離とコストは比例します。同時に、輸送過程でのCO2排出量は、地域材以外の外材を使う家づくりの数分の一に抑えられます。お財布と環境への負荷が少なくなること。地域材を使う家づくりの、大きなメリットのひとつです。



環境に優しく、コストを抑えながら、丈夫で安心できる家を実現。あなたの大切な家づくりを丁寧に支える、地域材のご利用を推進しています。

茨城県木材協同組合連合会



申請者：naka建築設計室(090-8647-9786)
 工事施工者：(株)渡辺建工 (0296-37-6124)
 延床面積(㎡)：85.29㎡(25.75坪)

半田の家

naka建築設計室 + (株)渡辺建工

■周辺に田畑や果樹林が広がる緑豊かな立地。自然環境を邪魔しないプランを優先した。施主が伐採し保管していた、裏山に生えていたスギの木を床材として利用。大工がクセを読み、色合いを調整し施工した。日常的に触れる床を地元の木でつくる贅沢な仕様。■二階より一階を小さくし環境への負荷軽減と同時に畑への動線が目前にあるため外からの視線が届かない二階リビングを実現。大開口で採光・通風はもちろん、揺れる樹木が広がる眺望も楽しめる。安定した温熱環境も実現できた。

自然がはぐくみ、人の和が育てる………木のぬくもりあふれる、堅実な暮らし。

IBARAKI WOOD DESIGN CONTEST 2026

「いばらき地域適合型木造住宅」とは 気候風土を踏まえ、地域材を活用してつくる家。

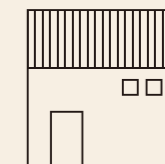
茨城県の気候・風土等の地域性を踏まえ、地域材(※)を活用し、かつ、ユーザーにとって充実感のある住宅とし、これからの木造住宅の指針となるべきコンセプトを明確にした住まい。

※地域材とは次のいずれかに該当する木材及び木材加工品。

①県内の森林から生産された原木により製材されたもの。②県内の製材事業所で製材されたもの。

【主な設計基準】

- (1) 地域材を構造材全数量の50%以上使用していること。
- (2) 内装材として、地域材を積極的に活用し、快適でやすらぎのある住空間とすること。
- (3) 住宅の長期の耐久性を確保し、また、地域の自然、景観、生活様式等と調和し、世代を超えて継承・持続されるような工法・間取り・デザイン等を採用すること。



なぜ地域材が推奨されるのか

地域の森林の活性化を図り、地球にやさしい家づくりができる。

■森林は、化石燃料などの代替エネルギーとして注目されています。成長期に高レベルの二酸化酸素削減効果を発揮し、地球温暖化の防止策としても役立ちます。■地域の森林資源を積極的に活用し、同時に植林を進め、常にバランスのとれた循環を整え、資源を生み出しながら、地球環境保護に貢献する森林を育成できる。地域材を使用する意義はここにあります。



地球環境を守るサイクルとは

「森林育成」「木材利用」「省エネ貢献」。次代につなぐ、大切なサイクル。



■森林を育成するためには、木材の利用を促進する必要があります。木材で建築資材を作ることは、他の原料よりも効率がよく、また余分なエネルギーがかかりません。冷暖房費の節約にもつながり、省エネへの貢献度も決して小さくありません。■家づくりに用いられた木材が、いづれ土をはじめとする自然に還り、また森林を育成していく…。自然の循環、持続可能なエネルギー確保のために、木を使って家を建てることは、非常に有用なのです。

応援します。 茨城の家づくり

茨城で暮らすなら、「茨城らしい家」が最も適している。
 「茨城らしい家」は、茨城の職人が最もよく知っている。
 設計業者や材木店、大工・工務店など「茨城の家づくり専門職」による
 住まいづくりを応援しています。

茨城県木材協同組合連合会は、会員相互扶助の精神に基づき、協同して林産(木材、製材)に関する事業を行うために必要な施設をなし、会員の公正な経済活動の機会を確保し、もってその自主的な経済活動の促進と経済的地位の向上を図ることを目的としています。

茨城県木材協同組合連合会

いばらき地域適合型木造住宅コンペ【令和7年度 概要】

※詳細はホームページ(<https://www.wood-ibaraki.jp/>)より「いばらき地域適合型木造住宅コンペ実施要綱」をご確認ください。

内容は令和7年度のもので、次年度以降は改めてHPで告知いたします。

【趣旨】

地域が育んだ木材で 現代のライフスタイルに適した木の家を

地域の自然が育んだ木材を利用し、現代のライフスタイルにあった木造住宅を提供するため、地域の木工・工務店と建築設計事務所が連携、協力しながら、住まいづくりを通して建築主との信頼関係を育て、安心と信頼の住まいづくりの地域ルール「いばらき地域適合型木造住宅供給システム(自然が育み、人の和が育てる)」を確立することを目的として、これら関連事業者の連携、協力のもとに提供された良質な木造住宅の企画や提案を含む建築実例を求めるものです。

【応募資格】

- 県内に事業所を有する「建築設計事務所」及び「工事施工者」との組み合わせとし、登録申込代表者は建築設計事務所とします。なお、同一事業者が「建築設計事務所」及び「工事施工者」を兼ねる場合は1者でも応募可能です。
- 同一組み合わせでの複数案の応募、又は他の事業者との組み合わせによる重複応募も可能ですが、その際の申請書等は一つの応募毎にまとめてください。

【設計条件概要】

〈提案住宅〉 在来木造住宅

- 住宅の一部に小規模な事務所・店舗等を兼ねるものも対象とする。
- 新築に限らず、設計条件等をすべて満たす増改築又はリフォーム工事も対象とする。



〈設計基準〉

(審査基準①)

茨城県の気候・風土等の地域性を踏まえ地域材(*)を活かしたデザインとし、かつユーザーにとって充実感のある住居用の建物(別荘等を除く)として建築され、使いやすく住みやすい木造住宅の指針となるべきコンセプトとすること。また、価格についても通常想定される範囲において建築可能な仕様等であること。

※地域材とは次のいずれかに該当する木材及び木材加工品

- ① 県内の森林から生産された原木により製材されたもの ② 県内の製材事業所で製材されたもの

(審査基準②)

- (1) 柱や梁、土台、桁、筋違、間柱などの構造材に地域材を構造材全数量の50%以上使用すること。
- (2) 内装材として、地域材を積極的に活用し、快適でやすらぎのある居住空間とすること。(数量は特に指定しない)
- (3) 住宅の長期の耐久性を確保し、地域の自然・景観・生活様式等と調和し、世代を超えて継承、持続されるような工法・間取り・デザイン等を採用すること。

〈その他〉 (1) 県内で2020年1月1日以降に施工したものであること。

- (2) 作品を当コンペに応募することについて、建築主等の関係者から承諾を得ていること

【作品集作成による情報発信(公表)】

- 当コンペへの応募作品を、地域の木工・工務店と設計事務所の連携・協力による取り組みとして広く消費者へPRするため、以下の方法による情報発信を実施します。

- (1) 「いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集」の作成応募作品をまとめた

「いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集」を作成します。なお、応募者には作品集を贈呈します。

- (2) 集客施設での情報発信イベント(最優秀賞、優秀賞、リフォーム賞のパネル展示会)の開催。

イベント、県産材展示施設等を活用した、応募作品の展示等によるイベントを行います。

(※感染症等の蔓延防止の観点から、イベント等の開催内容を変更させていただくこともあります。)

- (3) ホームページへの掲載

いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集の内容は、茨城県木材協同組合連合会のホームページや

Facebook、X、Instagram等のSNSに掲載します。また、受賞者等も、その結果を広報に活用することができます。

登録申込
及び
募集先

〒319-2205 常陸大宮市宮の郷2153-38 茨城県木材協同組合連合会 総務課

※登録申込及び募集については、期間内に直接持参していただくか、郵送(当日消印有効)又は電子メール(送信日が締切日以前であること)にて応募して下さい

TEL : 0294-33-5121 / FAX : 0294-33-5191

E-mail:mokuren @ atlas.plala.or.jp 茨城県木材協同組合連合会

検索



After

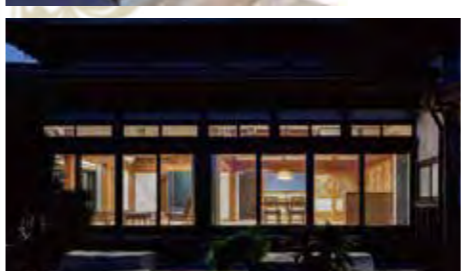


古い日本家屋に多い、田の字型に並んだ和室を柱・梁などの風合いを残し、広々としたLDKに。生活のしやすい、採光、視覚的な広がり確保でき、かつ古民家の味わいを十分に残すリフォームとなった。

Before



after before



申請者: (株)井川建築設計事務所 (029-894-3848)

工事施工者: (有)櫻井建築 (029-887-5304)

延床面積(坪): 186.81㎡ (56.51坪)

リフォーム賞

ビンテージハウスリノベ

(株)井川建築設計事務所 + (有)櫻井建築

田の字型の和室を、家族が集う空間へ。
古民家を次世代に繋ぐ、「貴重な年代物」の家。

■ 長年、この地に馴染んだ古民家の味わい、佇まいはそのままに、現代のライフスタイルに合わせたリフォーム。日当たりのよい客間は、家族が集まり、憩うLDKへ。既存の柱梁を現し、懐かしさと歴史を感じさせつつ、新たに刻む家族の歴史を見守る空間とした。■ サッシ及び断熱の改修を行い、空調設備を各部屋完備し、古民家に不足していた気密性と快適性の向上を実現。既存建具を生かした。■ 「ビンテージ」は、単なる古い物・中古品ではなく、希少性や品質で評価される。まさに「住み継ぐ」家であり、次世代に日本家屋の価値と魅力を繋ぐ家として再生した。